

# 令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果分析について

## 結果分析の詳細（中学校）

（Ⅰ）各教科に関する調査（○、▲は県の平均正答率と比較し顕著な項目）

### ① <国語の結果分析>

○目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかをみる問題

【書くこと】

○文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることができるかをみる問題

【読むこと】

○事象や行為を表す語彙について理解しているかをみる問題

【言葉の特徴や使い方に関する事項】

▲資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかをみる問題

【話すこと・聞くこと】

▲表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかをみる問題

【読むこと】

▲読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかをみる問題

【書くこと】

〔改善に向けた取組み〕について

スピーチの場面において、スライドを使った話し方の工夫を捉える点に課題がみられました。指導改善として、スライドを使った発表場面では、「聞き手が分かりやすいように」といった抽象的な表現で工夫を考えるのではなく、目的に合った伝え方の工夫の具体を言語化できるような指導を大切にしていきます。推敲する場面において、読み手の立場に立って文章を整える点に課題がみられました。指導改善として、「指示する語句と接続する語句の役割」や「敬語の働き」など、指導事項との関連を図りながら、学習した知識及び技能を生かして文章を整える学習活動に取り組んでいきます。

### ② <数学の結果分析>

○事柄が常に成り立つとは限らないことを説明する場面において、反例をあげることができるかをみる問題

【数と式】

○必ず起こる事柄の確率について理解しているかをみる問題

【データの活用】

▲素数の意味を理解しているかをみる問題

【数と式】

▲ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかをみる問題

【図形】

〔改善に向けた取組み〕について

素数の定義に関する理解に課題がみられました。指導改善として、素因数分解の学習をとおして、1が素数に含まれないことを理解するなど、他の単元と関連付けながら概念としての理解を深めていきます。証明問題については、証明する道筋が見えていない点に課題がみられました。指導改善として、図形における複数の構成要素を関連付けてみる力や証明と図を関連付けて読み解く力を重点的に指導し、その力の育成に努めていきます。「思考・判断・表現」に焦点を当てた授業では、途中までも表現できたことをプラスに評価し、自分の考えを説明したり、記述したりする力の育成に努めていきます。

### ③ <理科の結果分析>

○身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題を解決するための課題を設定できるかをみる問題

【粒子を柱とする領域】

○塩素の元素記号を問うことで、元素を記号で表すことに関する知識及び技能が身に付いているかをみる問題

【粒子を柱とする領域】

○分解に関する身近な事象を問うことで、これまでに学習した理科の知識及び技能を基に、化学変化の分解の知識が概念として身に付いているかをみる問題

【生命を柱とする領域】

▲電熱線で水を温める学習場面において、回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識及び技能が身に付いているかをみる問題

【エネルギーを柱とする領域】

▲露頭のどの位置から水が染み出るかを観察する場面において、小学校で学習した知識を基に、地層に関する知識及び技能を関連付けて、地層を構成する粒子の大きさとすき間の大きさに着目して分析して解釈できるかをみる問題

【地球を柱とする領域】

▲水の中の生物を観察する場面において、呼吸を行う生物について問うことで、生命を維持する働きに関する知識が概念として身に付いているかをみる問題

【生命を柱とする領域】

〔改善に向けた取組み〕について

小学校理科で学習した知識及び技能を活用して解決する点に課題がみられました。小学校で培われた資質・能力が必ずしも全員に身に付いているとは限らないので、生徒の実態に応じて、前の学習に戻って知識を想起させ、その知識が新たな知識とつながる実感をもたせるような学びを大切にしていきます。呼吸の問題において、動かない生物は呼吸をしないと誤って理解している実態が見てとれました。生物において呼吸は、生命を維持するために不可欠であることを改めて理解する必要があります。生命及び地球を柱とする領域では、引き続き、共通性と多様性に着目した見方・考え方を働かせるような指導を大切にしていきます。

## (2) 生徒の質問調査 (○、▲は肯定的回答の割合の顕著な項目)

○毎日、同じくらいの時刻に起きている

○学校の授業時間以外に、普段（月曜日～金曜日）、PC やタブレットなどの ICT 機器を勉強のために使っている

○国語の勉強が好きであり、国語の授業の内容がよく分かる

▲自分には、よいところがある

▲困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる

▲理科の授業では、自分の予想（仮説）をもとに観察や実験の計画を立てている

「毎日、同じくらいの時刻に起きている」と肯定的に回答した割合が全体の9割以上であることから、安定したリズムの中で生活を送っていることが伺えます。「学校の授業以外において、勉強のために ICT 機器を使っている」と肯定的に回答した割合が県や全国と比較してやや高い傾向にあることから、学校内でも積極的に活用していくような授業に努めていきます。「国語」の勉強を好意的に捉えている生徒の割合が高く、理解度に関する自己評価も高い傾向にあることから、日頃の授業の充実度の高さが伺えます。

一方で、「自己肯定感」に係る項目において、肯定的回答の割合が県や全国と比較して低い傾向にありました。さまざまな体験や活動の中で、個々のよさを互いに発見するとともに、そのよさを伝え合うことで、それぞれの自己肯定感を高められるように努めていきます。また、「困りごとや不安がある時の相談」に係る項目において、肯定的回答の割合が県や全国と比較して低い傾向にあることから、相談体制の見直しを図るとともに、普段の生徒の様子を複数の教員の目で見取り、必要に応じて教師側からアプローチしたり、SC や SSW などの関係機関につないだりするような取組みを一層充実させていきます。「数学」の勉強については、令和4年度（当時6年生）の調査と比較すると、好意的に捉えていた生徒の割合が中学校になって減少する実態が見てとれました。学習内容がより抽象的になって難しくなることも要因の一つだと考えますが、中学校段階においても生徒の問いを軸にした授業づくりと、必要に応じて具体的に戻った実感を伴う理解の促進が必要だと考えます。「理科」の授業についても、令和4年度（当時6年生）の調査と比較すると、肯定的回答の割合が中学校になって減少する実態が見てとれました。予想（仮説）を立てることは、観察・実験の視点を定めるとともに、予想と結果の比較から深い理解や新たな発見にもつながることから、小中学校間の接続を意識した授業改善に努めていきます。